

産業競争力懇談会（COCN）
2021年度推進テーマ活動企画書

1. 推進テーマのタイトル

緑のエコシステム研究会

2. 産業競争力強化上の効果

1997年の京都議定書、2015年のパリ協定など、温暖化ガス削減は世界の重要課題であった。近年、異常気象とそれによる自然災害の激増により、各国政府・企業は2030年から2050年を目標年度とする温暖化対策を矢継ぎ早に打ち出し、すみやかに実行に移している。大手企業が原材料の調達先を温暖化対策企業に限定、消費者の環境意識の向上、さらに金融においても対応状況に応じた投融資の実施など、温暖化ガス対応は今や企業の重要経営課題と言っても過言ではない。

様々な温暖化ガス対策の中で、森林は主要な二酸化炭素吸収源であり、産出される木材は建材や新素材などとして長期にわたり二酸化炭素を固定化し、最終的に木質バイオマスとして、カーボンニュートラルに熱・電気エネルギーを生み出す。また木々の緑は、人々にいこいと安らぎをもたらす。この樹木を中心とした二酸化炭素の吸収、固定、エネルギー産生、環境対応を「緑のエコシステム」として、各社および関係団体の活動を参考にしながら、企業の技術面、財政面での関与を検討し、温暖化対策と企業活動に貢献していきたい。

3. 実現すべき目標とベンチマーク

昨年度の「林業再生・木質バイオマス研究会」の検討結果をもとに、おもに育種、苗木の生産から伐採にいたる森林サイクルの構築と都市の木質化、新素材開発などCO₂固定能力の向上にむけた方策（技術面、財政面）を検討し、プロジェクト化を目指す。

4. 検討内容と構築すべきエコシステムの要素

森林資源の効率的な木質バイオマス化によるエネルギーとしての活用と、炭素固定能力の向上にむけ、主に下記の点について技術面および財政面から企業のかかわりについて検討する。

- (1) 「エネルギーの森」を実現する育種、苗木の生産から伐採にいたる森林サイクルの構築
- (2) 輸入木質バイオマス原料の国産化にむけた木材燃料化の合理化、規格化
- (3) 都市の木質化と木材加工（製材、CLT*化）技術の推進、新素材の開発

CLT：Cross Laminated Timber、直交集成材

5. 想定される課題、解決案、官民の分担

官民の有識者からのヒアリングや研究会メンバー間での情報交換、検討などから、取組みの現状を把握、確認しながら産業界視点で論点を整理し、課題の洗い出しと解決案の検討を行う。

6. 目標実現までのロードマップ

ほぼ月次にネット上で開催する研究会において、メンバー間で課題について検討、協議する。

7. プロジェクトの出口、その後の推進主体案

検討の結果、あるいはその過程において、産業界として自発的に取り組むべきテーマが見出されれば、次年度以降のCOCN推進テーマプロジェクトとしての取組みを検討する。

8. プロジェクトの推進体制と想定する主なメンバー（敬称略）

リーダー：京都府立大学 教授 宮藤 久士

サブリーダー：第一三共株式会社 久保 祐一

メンバー：昨年度研究会メンバーを中心に新規メンバーを加えて構成予定

事務局：第一三共株式会社、日本電気株式会社